

令和7年度 まちづくりを語る会 概要

(●意見・質問等 ○町側の回答等)

7月11日(金)

【意見・質問等】

- 資料p 5右下に町営バスの利用状況とあるが、西部線以外の他の路線についてのデータはあるのか。あれば見せてほしい。
- 地区内に一人暮らしの高齢者が何人かいる。手助けできることはやっているが、年々厳しくなっていると感じる。車の送迎のことだけでなく、生活の様々な面で大変になってきている。
- 就学徒歩困難な児童の就学支援のため、町でタクシーを配車していると思うが、何時の時間帯に何台タクシーを使っているか。駅に行くのにタクシーを呼びたかったが、就学支援のため、配車中のため手配できなかった。配車できない時間があるのではないかな。
- 町営バスの東根線の利用状況について、東根からの夕方の便の利用者が少ないとのことだったが、保護者などが迎えに行っているため少ないと考えられるのではないかな。そのへんの分析が必要なのではないかな。
- 過去に乗り合いで学校の先生が運転する車が事故に合ったことがあり、町内でも相乗りが禁止されて部活動や大会に行くのが大変だという声がある。
- 地区に6人の小学生がおり、毎日学校まで歩いて登校している。我々が小さいときであれば当たり前のことであつたが、今は子どもだけでは危ないということで、付き添いで親と一緒に登校している。仕方がないことだと思うが、大変だなと感じている。下校となれば、学童にいない子は一人で家まで帰ることになり、心配で学校まで迎えに行ったりしている。今後、小学校が統合すれば遠くなる地区もあるかと思うので、その辺も十分考えて進めてほしい。
- 引っ越してきたばかりで町特有の問題は分からない。一般的に子供が複数人いる家庭では、親が複数回子供を迎えにいく必要があるため、負担が大きいのではないかな。公共交通が整備されることで、少子化対策にもつながっていくのではないかなと思う。
- 資料p 6の町営バスのコスト計算について教えてほしい。
- 地区内の先輩の方で免許返納した後、谷地地区にも行けなくなって困ったという方がいた。冬期間以外は自転車で行けるが、冬はタクシーを使わざるを得ない。明日は我が身だなと思ったところ。
- 山形市でお酒を飲むため、町営バスを利用しようとしたが電車との接続が悪く使えなかった。町営バスは午後便が少なく、寒河江から谷地だとバスが使えずタクシーを利用せざるを得ない。しかし、タクシーを呼んでも時間がかかるし、呼んでもこないこともある。
- 町内にも代行業者がいるが、先日、ひなの湯で飲んだときは代行が呼んでも来ず歩いて帰った。
- ひなの湯の送迎バスについても利用を柔軟に対応してほしい。

●運転免許を持っていない方で様々な会議に出席する際に、都合がつかなくて欠席することがあった。欠席の場合は資料を持っていくが、会議の場にはいなかったため、“聞いてない”なんてこともあるのではと思った。

●公共交通の会議であれば、利用者の生の声を聴くことが大切。ただ、そのような方は会場までも来れないのではないかと。会議の在り方として適切だったのか疑問が残った。

●日々の生活の中には、公共交通では補えない部分というものがあると思う。私も畑仕事をしているが、農機具や肥し袋は公共交通に乘せることができない。免許返納を進めているが、公共交通では補えないところがあることを理解してほしい。単純に免許返納を進めるのではなく、“公共交通を使いましょう”とか“家族に送ってもらいましょう”とか免許を持っていたとしても運転しない運動を進めるべき。免許は災害の時に使えるから返納はしなくてもいい。ただし、平時には“車に乗らない”の選択肢があってもいいのではないかと。その辺のキャンペーンが足りないと感じる。

●西川町の町営バスは夜遅くまで運行しており、感心している。どのぐらいのコストをかけているのか分かれば教えてほしい。

【町側の回答等】

【町営バスの利用状況について】

○他の路線についてもデータはある。今年の6月に葉山タクシーから乗車記録を出してもらっている。平日5日間の乗車記録になる。ただし、東根線だけは1週間分となる。

○西部線の1便は極端な例である。路線によっては結構乗車している実績もある。

西部線も2～3便であれば乗車数もそこそこ利用者数はいる。

○東根線は非常に乗車数が多い。特に高校生の利用が多い。帰りの便では増便しないと対応できない。

【就学支援のためのタクシー利用について】

○特別支援学級の生徒のために配車している。正確な人数はこの場では資料がないため分からない。

【町営バスのコスト計算などについて】

○河北町の場合は葉山タクシーへの委託料をバスの利用者数で除して算出している。

○同じ時間帯に利用が集中して、タクシーを呼んでも来ない問題は、全国な問題であり、河北町特有の問題ではない。公共交通の強みは、一度に多くに人を乗せることができる点にある。利用者の声を詳しく聞いて利用が集中する時間帯にはバスのような乗り物にする。午後や夜など利用者が少ない時間帯はタクシーを利用するなどの考えが必要かなと思っている。

【利用者の声及び会議の在り方について】

○利用者の方の声を聴くことは大切だと考えている。調査を進めていく中で、利用者の声を聴いていくことも検討している。会議の在り方については、今日は仕事終わりの時間、明日

は日中の時間帯とわりとベストな時間帯であったと思う。今後は調査の目的や集まっていたきたい方に合わせて、時間等を考えていきたい。

【免許の返納について】

○免許を返納しろというメッセージを送ったつもりはない。様々な公共交通や移動手段を使いながら生活していけるようにしていきたいと考えている。免許返納については、おっしゃる通りで返納後の手立て（タクシーの無料券を配るなど）しか考えられていない。私も免許返納を押ししたいのではなく、様々な移動手段を組み合わせながら生活していきましょうということを訴えたいと考えている。

【西川町の町営バスについて】

○西川町の町営バスのコストについては分からない。今後調べてみる。

○西川町の町営バスの時刻表は、東京までのアクセスまで記載している。全国的に見てもかなり特殊な事例である。

令和7年度 まちづくりを語る会 概要

(●意見・質問等 ○町側の回答等)

7月12日(土)

【意見・質問等】

●NPO 法人を立ち上げ、住民自ら運営しているという「にこにこ日土」は具体的にどのように運営しているのか。この取り組みは現在も続いているのか。

●資料 p 1 右上に「運転を辞めた人は要介護認定リスクが高まる」とあるが、「運転を辞めたから要介護リスクが高まる」というよりは、「健康状態が悪化して要介護リスクが高まっている人が運転を辞めている」からこのような結果になっているのではないかと。健康な人は免許返納しないと思うので。

●山交バス寒河江線について、河北病院～谷地所岡までの利用者数を増やしたいとのことだが、それは難しいのではないかと。

●資料 p 5 左下に「東根線は1台で輸送しきれない場合があり、増便で対応している」との記述があるが、どのように分析しているのか。

●資料 p 6 左上によると西部線の一人当たりのコストは 1,629 円となっている。一人あたりのコストが 2,000 円を超える路線は見直しが必要とのことで、単純にコストの面で言えば見直しは必要ないかもしれないが、資料 p 5 右下で示されている利用者数の少なさを考えると見直ししてもよいのではないかと。

●にこにこ日土の申し込み方法はどうなっているのか？

●にこにこ日土のように、住民自らが地域課題解決の担い手となっていくことが将来的に重要になると思う。河北町には70代でも元気な方が沢山いる。そうした元気な高齢者で協議会を組織してデマンドタクシーやライドシェア事業を行っていくのはどうか。ドライバーが不足するなら郵便局員にお願いするという手もある。

●町営バスの運行時間に困っている。近所に住むお子さんが河北中にバスで通っていて、冬の間は早朝の便を逃すと次の便が1時間後となってしまう、毎朝眠い中早朝の便に乗って通学しているようだ。

●谷地の中心部にスーパーがないため、将来足腰が弱くなった時に買い物に行くのに困りそうだと思う。バスでスーパーに行くことはできても、帰るタイミングにちょうどよい便がないので帰るのに困ってしまうと思う。

●新幹線などを使って観光に来た人の、東根駅から河北町までと、河北町に着いてからの交通手段がない。

●地元の中・高生が休日に天童イオンに行くバス待ちに困っている。

●べにのすけタクシーを利用させてもらっているが、土日の利用ができなくて困っている。一律片道500円なので、距離があまりない移動をするときは高上りになる。

- 土日にあるイベントで、シャトルバスが出ていても町内各地を回るルートになっていないのでイベントに行けず困っている。これではシャトルバスの意味がないのでは。
- 自分は足腰が悪くて医者や買い物、バスの停留所にすら行けない。地区ごと運転手を集めてライドシェアをするのはどうか。
- 高齢者の意見をよく聞いて計画を策定してほしい。
- 村山市の住むおばが公立病院に通うのに困っている。誰も送ってあげられる人がいない。
- 現在月山堂にあるヤマザワを利用しているが、今後ヤマザワがなくなってしまうたら、クスリのアオキやひな市のヨークベニマルまで足を延ばさなければならなくなる。将来的に生活の足に困るのではないかと思う。
- まちづくりを語る会のやり方について、全員話すには時間がなさすぎる。グループごとに分けるなどして話し合ったほうが良いと思う。
- 現在一人暮らしをしている。べにのすけタクシーの話を聞いたことがあるが、べにのすけタクシーはいつでも使えるのか。また、新病院が寒河江に建てられることが決まったが、べにのすけタクシーはその新病院までも利用区間の対象としてくれるのか。
- 高齢者は地域交通に対して切実な悩みを持っている。このような会合をもっと開いて悩みを聞いてほしい。地域住民の不安を取り除くことが大事だと思う。

【町側の回答等】

【「にこにこ日土」について】

○NPO 法人が運行、ドライバー、事務局を担っており、その全員が地域住民となっている。当然運賃を取りながら運行している。地域児童を乗せるスクールバスとしても活用されているようだ。この活動は地域公共交通が注目を浴び始めた2008年ごろから始まり、ずっと続いている取り組みである。同じような取り組みを行う団体は他にもあるが、10年くらいでメンバーの高齢化を理由に辞めてしまうことが多い。その点では中心メンバーが代替わりしながら活動を継続できているのが「にこにこ日土」や日土地区民の強みと言える。

【免許返納、山交バス、町営バスについて】

○確かにそういった見方もあるかもしれないが、この研究結果については一つの傾向として捉えてほしい。

○最初から沢山乗せたいのではなく、なだらかに乗車人数を増やしていきたい。

○東根線は特に夕方の便の利用者数が多く、その大半は高校生となっている。

○西部線の1便については利用が少ないが、2便目からは利用が増えているのでそこでコストが分散されているところ。

【にこにこ日土の予約について】

○にこにこ日土もそうだが、こうした取り組みは全国的にも電話予約が一般的。高齢者はスマホ操作が難しい。子供や若い世代がよく利用する場合だとスマホ申し込みにしている事例もある。

【ライドシェアについて】

○皆さんのご意見の中に地域住民でライドシェアを行ってはどうかとの意見が多くあった。しかし昨年地区の区長や民生委員等を対象に行ったアンケートでは、「地域住民で地域交通に関する取り組みを行うことができそうか」という設問に対して良い回答が得られなかった。実際のところ、皆さんの地域で何か取り組みができそうなところはあるか？

●高齢者からすれば喫緊の課題であって、できるかできないかを検討している場合ではない。アクティブシニアは沢山いるのだからできるはず。河北町は人口密度も高いので。

○これまで河北町で公共交通について町と町民が一緒になって考える機会が少なかったかもしれない。そういう意味では町民の中でも切迫感や当事者意識を持つ人がまだ少ない可能性がある。アンケートの結果を見ても当事者意識がまだないように見受けられるものも多かった。実際困っている人が声を上げていかないと変わっていかない。

【高齢者の移動について】

○土日の移動やタクシーが呼べないといった問題があるとのことだったが、車がない高齢者の実態について教えてほしい。

●息子夫婦がたまに来た時やお友達とお茶のみに併せて一緒に買い物に行くなどしているようだ。ただ、お茶のみをはじめとした地域コミュニティは年々薄れてきており、婦人会もなくなり、老人会もなくなる見込み。地区の行事に参加する人もどんどん減ってきて、町民の活気自体が失われているようだ。

○老人会がなくなるというのは驚いた。

●高齢化や病気で参加する人が少なくなった。地域コミュニティの在り方自体が問われている時代にあり、行政と住民とが一緒になって考えていく必要がある。ライドシェアについて、一度地区民に話してみようと思う。

●土日イベントのシャトルバスについて町長の意見を伺いたい。

○シャトルバスの利用が少ないのは事実。改善するように検討していく。

○意見を出してもらえることで行政としても気付けることがある。今日は地域で話し合ってみるとの声がいただけたのが何より良かった。